シリーズ 第98回

人権

子どもにとって一番良いこととは

私は小学校低学年の子ども２人を持つ父親です。子どもたちは放課後や休日に、プールとピアノ、体操教室に通っていて、忙しい日々を過ごしています。習い事には、将来の可能性を広げたり、物事をやりとげる達成感を味わえたりと、良い面がたくさんあると考えています。また、子どもには習い事を通じて継続して努力する力や、簡単に諦めない粘り強さを身に付けて欲しいとも願っています。

普段は前向きに通う子どもたちですが、時々習い事に行きたくないと言う日があります。そんな日はおやつで気分転換をさせるなどしていますが、どうしてもダメな日は無理に行かせず、休ませるようにしています。子どもには、習い事に対して自発的であって欲しいと考えており、本当に苦手だったり、合わなかったりするなら辞めてもいいと思っています。しかし、そうすることは甘やかしすぎではないかとも思っています。

小さな子どもはその場限りの判断をすることも多く、ある程度大人が将来を見通して関わってあげることが必要だと考えていますが、その関わり方の加減を日々悩んでいました。それは、子どもの権利条約においてうたわれている「子どもの最善の利益」と「子どもの意見の尊重」、まさにこの２つの間の葛藤でした。

ある日、子どもに「習い事に行きたくない日ってどうして行きたくないの？」と聞いてみました。すると、「疲れているから」とか「他にしたいことがあるから」などの答えが返ってきました。次に「行きたくないのに行っている日はどうして？」と聞いたところ、「父ちゃんや母ちゃんに怒られるから」という答えが返ってきました。

思い返すと、子どもに注意をする場面で、「そんなことしたら母ちゃんに怒られるぞ」とパートナーの名前を出し、自分は味方でいるようなずるい言い方をしていました。また「継続して努力する力を身に付けて欲しい」「簡単に諦めない粘り強さを身に付けて欲しい」という親の願いを伝えていなかったことにも気付きました。日々、子どもの意見をできるだけ尊重して物事を決めているつもりでしたが、子どもは自然と親の顔色をうかがって行動をしているのだと思いました。

今後は、自分自身の言葉で子どもと対話し、親としての願いを伝えるよう心がけるとともに、本当の思いを聞き取れるよう、しっかりと子どもの声に耳を傾けてみようと思います。そうすることで、子どもの意見を尊重しつつ、子どもにとっての最善の利益を選択することにつながっていくのだと思います。

(30代、男性)

人権豆知識

子どもの権利条約

人は誰もが生まれながらにして権利を持っており、それは子どもも同じです。子どもの権利条約では、子どもも権利の主体であることを明確にし、子どもが自分らしく生き生きと暮らしながら健やかに成長するために必要な権利を定めています。